



小野克典 市政報告

～ネクスト桶川！ 確かな実績が築く新たなステージ～

令和7年2月23日 桶川市長 小野 克典

目次

1 小野市政3期12年の実績

- ・ 3期12年の実績一覧

2 公民連携による取組事例

事例(1) OKEGAWA hon+ オープン（平成27年10月）
事例(3) 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場復原整備(令和2年8月)
事例(5) 移動スーパー運行開始（令和4年2月）

事例(2) フレスポ桶川整備（平成31年4月）
事例(4) 水泳授業の民間委託（令和5年度～）
事例(6) 道の駅「べに花の郷おけがわ」オープン

3 子育てしやすいまちづくり

- ・ 放課後児童クラブの充実
- ・ 小中学校エアコン整備（平成26年5月）
- ・ 高校生まで医療費無料化（平成30年4月）
- ・ 小・中学校体育館エアコン設置（令和5年度～令和7年度）

- ・ 保育所の待機児童解消
- ・ 桶川版ネウボラ（平成29年4月）
- ・ 小・中学校トイレ改修（令和2年12月）

4 誰もが安心して暮らせるまちづくり

- ・ 駅西口トイレリニューアル（令和7年1月）
- ・ 「自助」「共助」の推進

- ・ 一級河川「江川改修」
- ・ 民間企業等との協定締結

5 ネクスト桶川～新たなステージへ～

- ・ ますます高まる桶川の付加価値
- ・ 新たな公約
 1. 学校給食の完全無償化を目指して 段階的な給食費の無償化を開始
 2. 東側地区子育て支援拠点の整備
 3. 西側地区(日出谷)児童館、地域コミュニティ的拠点施設整備
 4. オーガニック給食の推進
 5. 75歳以上の市内循環バス無料化
 6. 駅東口整備の更なる加速
 7. ごみ処理施設整備促進
 8. 企業誘致の更なる推進
 9. 頻発化激甚化する災害への備え 備蓄品の更なる強化
 10. 安心安全なまちづくり

1. 小野市政3期12年の実績



公約の着実な実施

1期目の公約

桶川を元気にする44の宣言



くらしと安心・安全、環境に関する宣言

1 市役所新庁舎を建設します

- ・防災機能の充実強化
- ・バスポート発券窓口の新設
- ・ワンストップサービスの新設
- ・カフェ・ギャラリーの新設
- ・コミュニティ市民FM局の開設



2 JR東日本へ要望します

- ・始発電車、終発電車の時刻延長
- ・JR高崎線東京駅乗り入れの早期実現
- ・桶川駅ホームドアの早期設置

3 市民に親しまれる公園整備を進めます

4 防犯・防災対策を推進します

- ・道路照明灯・防犯灯の増設
- ・防犯灯の全灯LED化の推進
- ・災害に強い街づくりのため、全地域に自主防災組織を設置
- ・防災備蓄倉庫の増設・災害備蓄品の補強充足
- ・災害時におけるペットの保護対策

5 空き家対策条例を制定します

6 低炭素でエコなまちづくりを推進します

- ・市民総ぐるみでのエコ市民運動の展開
- ・太陽光発電設備・高効率給湯器などエコシステムの補助拡充
- ・エコポイントの推進
- ・エコドライブ・エコカー補助金制度

産業・まちづくりに関する宣言

7 桶川駅東口の整備を推進します

- ・駅利用者の安全を優先としたバリアフリー化の促進
- ・エレベーター・エスカレーターの整備
- ・バスターミナル・送迎用ゾーンの整備
- ・旧桶川南小学校跡地の活用
- ・駅発着のON（桶川や成田）ライナーの運行

8 圏央道I.C.周辺への企業誘致を進めます

9 「道の駅おけがわ(仮称)」を建設します

- ・農産物直売所、加工品及び物産販売所の設置
- ・災害防災拠点としての整備
- ・農産物や加工品などの地域ブランドの普及推進



10 中心市街地の活性化を進めます

11 都市基盤整備を充実します

- ・土地区画整理組合の支援及び事業の促進
- ・都市計画道路の早期完成
- ・西側大通り線、坂田寿線などの早期完成
- ・第二産業道路の整備促進
- ・市街化区域内の公共下水道整備率100%達成
- ・長久保路みぎりの整備
- ・中山道の整備



12 商店街への活性化支援を支援します

- ・中山道の整備や空き店舗を活用したまちづくりを推進、既存商店の活性化の促進
- ・観光拠点を回遊する、ハイキングルート及びサイクリングコースの整備

13 桶川ご当地ナンバープレート(バイク用)の交付をします

平成25年（2013年）4月に「桶川を元気にする44の宣言（96事業）」を公約に市長に就任してから12年が経とうとしています。
2期目・3期目に掲げた公約を合わせ、現在継続中の事業も含めて9割以上の事業を実現してきました。

・桶川市に於ける医療費無料化の推進
・かかりつけ医等と総合病院の連携による地域医療ネットワークの確立

14 産婦人科医の誘致をします

- ・市内に産婦人科病院の誘致を積極的に進め、安心して子どもが産まえる環境の整備

15 放課後児童クラブおよび放課後子ども教室を拡充します

- ・待機児童の解消
- ・高齢者指導補助員制度の創設
- ・現在2校に整備されている教室を、すべての小学校に整備

16 保育所の待機児童解消を図ります

17 桶川版健康長寿プロジェクトを立ち上げます

- ・寝たきりゼロ作戦
- ・元気体操の普及

18 障がい者の自立支援、就労支援の推進をします

19 介護老人福祉施設の誘致を進めます

20 高齢者市民農園の拡充をします

- ・貸し農園事業の推進

21 地域包括支援センターの増設をします

- ・1カ所増設（計4カ所とする）し、包括体制の強化を構築

22 高齢者の安心見守りネットワーク事業を充実します

- ・現行の見守りシステムを再構築、孤立死防止の取り組みの充実
- ・徘徊による行方不明者の早期発見機能の追加

・教育センター機能の充実
・給食の推進

市役所・行財政改革に関する宣言

23 市役所の活性化を図ります

- ・やる気のある人材の積極的な登用
- ・民間経験者の採用
- ・他の官公庁、民間などとの人事交流
- ・職員の意識改革



24 女性委員の登用を拡充します

- ・各種委員会や審議会などに、女性委員の積極的登用

・防災東部保護地及び公共施設の整備
・JTBが地区に西部連絡線を設置します

25 ごみ処理の広域化促進と処理施設の早期建設を図ります

- ・再生資源の有効活用
- ・ごみ処理業務の完全民間委託

26 公共施設の民間委託を進めます

- ・指定管理者の拡大

27 公共施設予約システムの導入をします

- ・公民館、各種体育施設、市民ホールなどの公共施設について、予約の簡素化・公平性を保つため予約システムを導入

2期目の公約

高校生までの医療費無料化、住民票などの各種証明書のコンビニ交付、地域包括ケア体制の充実、不妊治療費の助成、子育て支援充実に向けた「子育て基金」の創設、AEDの市内コンビニへの設置、小・中学校の老朽化対策、公園等への健康遊具設置のさらなる充実、桶川版ネウボラの実施等

3期目の公約

ごみ処理施設の整備、小中学校体育館へのエアコン設置、分庁舎・仮設庁舎跡地への地域生活拠点整備、駅東口の更なる整備促進（南小跡地活用）、更なる企業誘致の推進、デマンド交通の運行、市役所業務の更なるデジタル化、人生100年時代に向けた健康施策の推進、都市計画道路愛宕東線の整備、一級河川江川の整備促進、安心できる医療体制の充実（産婦人科誘致等）等

小野市政3期12年の実績

●小野市政1期目スタート

平成26年	4月	福祉 3 医療の窓口払いを撤廃 ※こども医療費、重度心身障害者医療費、ひとり親家庭医療費
	5月	市内全11小・中学校にエアコンを整備
	11月	オケちゃん健康体操を発表・健康長寿いきいきポイント事業開始
	11月	ご当地ナンバープレートの交付開始
	11月	市民活動サポートセンターオープン
平成27年	2月	サンアリーナエアコン設置
	10月	庁舎内にパスポート窓口を設置
	10月	桶川マイン図書館リニューアル（公民連携事業）
	10月	圏央道桶川北本I.C.～白岡菖蒲I.C.開通
平成28年	3月	長久保踏切の整備
	7月	桶川ー羽田 直行高速バスの運行開始
	9月	放課後子供教室を市内全7小学校で実施
平成29年	2月	山形県飯豊町と「友好都市宣言」を締結
	3月	朝日小放課後児童クラブを新築移転（定員：50名→80名に拡充）
	4月	桶川版ネウボラの構築
平成30年	10月	市内コンビニへAED設置
	3月	西小放課後児童クラブ分室の新築整備（定員：58名→98名に拡充）
	4月	川田谷小放課後児童クラブ分室開室
	4月	城山公園バーベキュー広場オープン
	4月	高校生（18歳）まで医療費無料化
平成31年	5月	市役所新庁舎完成、業務開始
	4月	桶川小放課後児童クラブ分室を拡充（定員：20名→50名に拡充）
	4月	スマイルピアザ坂田オープン（公民連携事業）

●小野市政2期目スタート



OKEGAWA hon+



圏央道開通



桶川ー羽田 直行高速バス



バーベキュー広場



市役所新庁舎

令和元年	7月	桶川駅東口にエレベーター設置
	10月	西側大通り線全線開通
令和2年	5月	「桶川市新型コロナ対策緊急支援パッケージ 第1弾」
	7月	「桶川市新型コロナ対策緊急支援パッケージ 第2弾」
	8月	桶川飛行学校平和祈念館オープン（桶川市初の官学連携事業）
	9月	「桶川市新型コロナ対策緊急支援パッケージ 第3弾」
	12月	市内全11小・中学校のトイレ改修完了
令和3年	1月	都市計画道路「坂田寿線」の全線開通
政3期目スタート	3月	「桶川市新型コロナ対策緊急支援パッケージ 第4弾」
	3月	東小放課後児童クラブ新築建替え（定員：73名→110名）【市内初の2階建て】
	7月	加納原地区の企業誘致事業で大型物流倉庫稼働開始
	10月	ゼロカーボンシティを宣言
令和4年	2月	移動スーパー運行開始（公民連携事業）
	3月	桶川市防災倉庫完成
	4月	加納小放課後児童クラブ分室設置(定員：46名→66名へ拡充)
	4月	朝日小放課後児童クラブ分室設置(定員：80名→120名へ拡充)
	5月	農業センターリニューアルオープン
	9月	地域福祉活動センターリニューアルオープン
令和5年	4月	川島町との1市1町によるごみ処理広域化協議会を設置
	4月	市内全4中学校でプール授業の民間委託を実施
	5月	市内全11小・中学校体育館エアコン設備整備事業（令和5年度～令和7年度）
	10月	川田谷生涯学習センター大規模改修完了
令和6年	4月	物価高騰対策事業（子育て世帯応援ギフト配布）
	4月	歴史民俗資料館リニューアルオープン
	4月	保育所保育料軽減事業
	7月	放課後児童クラブ夏休み・冬休み期間の昼食配食サービス開始
	12月	児童発達支援センターいずみの学園新築移転
令和7年	1月	駅西口トイレリニューアル
	3月	道の駅「べに花の郷おけがわ」開業予定



スマイルピアザ坂田



桶川飛行学校平和祈念館



移動スーパー運行開始



地域福祉活動センターリニューアル



桶川市歴史民俗資料館 リニューアルオープン式
歴史民俗資料館リニューアル
令和5年4月23日



駅西口トイレリニューアル

2. 公民連携による取組事例



事例(1) OKEGAWA hon⁺ オープン (平成27年10月)

桶川市 × 丸善、新都市ライフ

背景

- ▶ 桶川マインのリニューアル（東武ストアの売り場縮小）に伴い、新都市ライフと丸善が、図書館と書店を隣接させ連携を図ることを市に提案。
- ▶ 中心市街地に新しい人の流れをつくり、地域の賑わいや活気を創出するため、中心市街地の大型商業施設を賃借し、**市と民間事業者が共同で施設を整備。**

大型書店（丸善桶川店）・市立図書館（駅西口図書館）・カフェ・リラクゼーション施設・イベントスペースが隣接する
「**OKEGAWA hon⁺ プラス**」をオープン。



- 駅西口図書館を4階から3階に移転
- 蔵書数を9万冊から11万5千冊に増加
- 延べ床面積を2.5倍に拡大
- 丸善の大型書店（1,300㎡）を併設

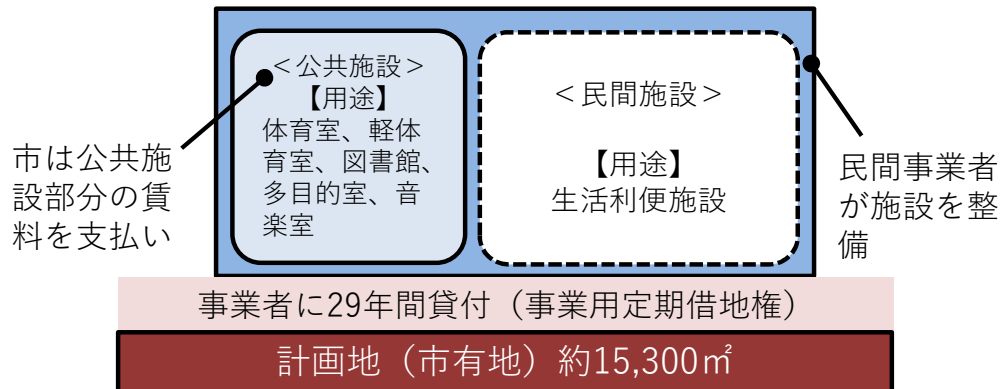
- ▶ イベントスペースでは、文化・交流のための活動拠点として、本に関するイベントやワークショップなどを多数開催。

事例(2) フレスポ桶川整備（平成31年4月）

桶川市 × 大和リース

「フレスポ桶川」は、区画整理事業で生み出された保留地に新たな生活・交流拠点として、公民連携手法により整備された公共施設（スマイルピアザ坂田）と民間施設の複合施設。

1. 事業スキーム



2. 事業費縮減効果

【従来の方式※1】

事業費
25.9億円

支出
25.9億円

【公民連携手法】

事業費
22億円※2

収入
11.8億円

支出
10.2億円

地代・固定資産税等の収入

実質負担ベースで
15.7億円^{の縮減}

（注）金額は概数

※1 従来の方式：民間との複合施設とせず、市が設計、建設維持管理を分割して発注。

※2 事業費22億円：企画提案により事業者が市に提案した事業費。

事例(3) 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場復原整備 (令和2年8月)

桶川市 × ものづくり大学

概要

桶川飛行学校平和祈念館 (旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場)

現存する旧陸軍飛行学校の遺構としては、全国唯一

- ▶ 今から86年前の昭和12年6月3日に開校し、陸軍少年飛行兵の実技教育施設として、延べ1,500～1,600人の学生が訓練を受けたとされている。
- ▶ 終戦後、この分教場には、GHQが1年ほど駐屯していたが、その後、大陸からの引揚者の方たちのための市営住宅として、市（当時は川田谷村）が国から借り上げ「若宮寮」という名称のもと、一時は、64世帯、300人ほどが暮らしていた。



- ▶ 令和2年の開館から多くの方にご来場いただき、現在来館者は**4万人**を超えています。
- ▶ 今年、開館から5周年、戦後80年、「桶川市平和都市宣言」から40年の節目を迎えます。

事例(4) 水泳授業の民間委託（令和5年度～）

桶川市 × 埼玉スウィンスイミングスクール

- ▶生徒の泳力向上と教員の負担軽減を目的に、令和3年度から中学校のプール授業を民間に委託して実施している。（埼玉スウィンスイミングスクール桶川校）
- ▶令和3年度は市内中学校4校のうち1校（桶川東中学校）の授業を委託し、令和4年度は2校（桶川東中学校、桶川西中学校）で実施。
- ▶令和5年度から**中学校全4校**で実施。

メリット

○計画的な学習が可能

民間委託の場合は屋内施設のため、季節や天候に左右されず年間を通して計画的に学習できる。

○レベルに応じた指導が可能

専門的な指導者のもとレベルに応じた指導が可能。

○衛生管理が容易

スイミングスクールのため塩素濃度など、水質や水温を一定に保つことができる。

○学校職員の負担軽減

学校職員によるプールの維持管理や安全管理の時間等を他の業務に当てることができる。また、施設の維持管理に必要な費用を抑えることができる。

費用等

- ▶学校のプールは、光熱費（水道・電気）、水質検査、ろ過機点検などで、1校あたり年間約130万円程度の費用が掛かる。（生徒一人当たり約17,000円。）
- ▶委託の場合は、生徒一人当たりの費用約10,000円と、費用面でも委託の方がメリットが高い。



事例(5) 移動スーパー運行開始（令和4年2月）

桶川市 × カスミ

桶川市は、駅周辺の中心市街地から離れた地域で特に高齢化率が高く、更に、食料品等が買えるスーパーや小売店が少ない買い物空白地域となっている。



令和3年（2023年）年11月1日に株式会社カスミと締結した「包括連携協定」に基づき、令和4年2月から「**移動スーパー**」の運行がスタート。

運行スケジュール

▶ 月曜日から金曜日の、10時頃から15時30分頃まで、それぞれ市内10地区ほどを運行中。



月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
桶川市立中央公民館 10時10分～	桶川市立中央公民館 10時10分～	桶川市立中央公民館 10時10分～	桶川市立中央公民館 10時15分～	桶川市立中央公民館 10時10分～
王子センター 10時45分～	王子センター 10時45分～	王子センター 10時45分～	王子センター 10時45分～	王子センター 10時30分～
桶川市立中央公民館 11時10分～	桶川市立中央公民館 11時10分～	桶川市立中央公民館 11時10分～	桶川市立中央公民館 11時10分～	桶川市立中央公民館 10時50分～
桶川市立中央公民館 11時35分～	桶川市立中央公民館 11時35分～	桶川市立中央公民館 11時35分～	桶川市立中央公民館 11時35分～	桶川市立中央公民館 11時10分～
桶川市立中央公民館 12時05分～	桶川市立中央公民館 12時05分～	桶川市立中央公民館 12時05分～	桶川市立中央公民館 12時05分～	桶川市立中央公民館 11時45分～
桶川市立中央公民館 14時20分～	桶川市立中央公民館 14時20分～	桶川市立中央公民館 14時20分～	桶川市立中央公民館 14時05分～	桶川市立中央公民館 14時15分～
桶川市立中央公民館 15時00分～	桶川市立中央公民館 14時35分～	桶川市立中央公民館 14時20分～	桶川市立中央公民館 14時25分～	桶川市立中央公民館 15時00分～
桶川市立中央公民館 15時35分～	桶川市立中央公民館 15時10分～	桶川市立中央公民館 15時15分～	桶川市立中央公民館 15時25分～	桶川市立中央公民館 15時20分～

事例(6) 道の駅「べに花の郷おけがわ」

桶川市 × TTCグループ



令和7年3月27日
道の駅「べに花の郷おけがわ」
グランドオープン

- ・市の魅力を伝える情報発信の場
- ・農商工業振興による販路拡大や6次産業化の推進
- ・訪れる人々と地域の人々が交流する新たな憩いの場
- ・広域交通網の結節点を活かした広域的な防災拠点

DBO(Design Build Operate)方式

施設の設計・建設から維持管理・運営までを一体で
民間事業者へ発注する方式



◎株式会社TTCの道の駅運営実績

- ・木更津 うまくたの里 (千葉県木更津市)
- ・伊豆のへそ (静岡県伊豆の国市)
- ・なんぶ (山梨県南部町)
- ・伊豆月ヶ瀬 (静岡県伊豆市)
- ・足柄・金太郎のふるさと (神奈川県南足柄市)
- ・くるくるなると (徳島県鳴門市)
- ・常総 (茨城県常総市：R5.4 開業)
- ・サーモンパーク千歳 (北海道千歳市：R5.8開業)

▶ 期待される効果

◎一体発注による業務効率化及び事業費縮減

◎事業者ノウハウを活かしたサービスの質の向上

▶ 開業後の収支予定 (開業後は、市の実質負担額0での維持管理を想定)

◎歳入 納付金(売上の5%)など：年間約3,600万円

◎歳出 指定管理料など：年間約3,600万円

※売上が伸びれば納付金も増

3. 子育てしやすいまちづくり



放課後児童クラブの充実

平成25年度から令和6年度までで**397**名増（459名 ⇒ 856名）

約2倍

待機児童解消に向けたこれまでの取組

平成25年度～ 民営放課後児童クラブの運営費等の補助を実施。

平成29年3月 **朝日小学校放課後児童クラブの新築移転**

（定員：50名から80名に拡充）

平成30年3月 **桶川西小学校放課後児童クラブ分室の新築整備**

（定員：58名から98名に拡充）

平成30年4月 川田谷小学校の教室を借り、**川田谷放課後児童クラブ分室開室**

（定員：32名から52名に拡充）

令和03年3月 **桶川東小学校放課後児童クラブの新築**

（定員：73名から110名に拡充）※市内初の2階建て

令和04年4月 **加納小学校放課後児童クラブ分室設置**

（定員：46名→66名へ拡充）

朝日小学校放課後児童クラブ分室設置

（定員：80名→120名へ拡充）



東放課後児童クラブ(R3.3月)



朝日放課後児童クラブ(H29.3月)



西放課後児童クラブ(H30.3月)

保育所の待機児童解消

平成25年度から令和6年度までで**441名・約14億円**増

保育所定員

平成25年度 849名

令和 6年度 1,290名

441名増加

1.5倍

保育所関連予算

※保育所関連予算

私立保育園や認定こども園等の運営費補助金等

平成25年度 3億3430万円

令和 6年度 17億5154万2千円

(子育て需要に応じて重点的に予算を配分)

約14億円増加

5倍



さくら保育園 (H25.4.1開設)



なのはな保育園 (H27.4.1開設)



ひがし保育園乳児室 (H28.4.1開設)

定員数には、家庭保育室から小規模保育施設へ移行した定員数、認定こども園の定員数（保育所分）を含む。

小・中学校エアコン整備（平成26年5月）

- ▶児童、生徒の学習環境を改善するため、市内全11小・中学校の普通教室に、エアコンを整備。



高校生までの医療費無料化（平成30年4月）

平成30年4月診療分から18歳以下の医療費を無料化し、子育て世代の経済的負担を軽減。

～平成30年3月 中学校卒業（15歳）まで

平成30年4月～ 高校卒業（18歳）まで

※中学校卒業まで・・・
満15歳に達した日以後の最初の3月31日までにある者
※高校卒業まで・・・
満18歳に達した日以後の最初の3月31日までにある者

桶川版ネウボラ（平成29年4月）

「**ネウボラ**」はフィンランド語から派生した言葉で、妊娠から出産、子どもが生まれた後も**切れ目なくサポートを提供する**総合的な支援サービスのこと。

子育て世代包括支援センター

- ▶平成29年4月、保健センター内に「桶川市子育て世代包括支援センター」を設置。
- ▶「母子保健コーディネーター」（保健師等）
「子育てコンシェルジュ」（保育士資格者）が、妊娠、出産、育児、子育てに関する様々な悩みに対し、切れ目のないきめ細やかなサポートを実施。

小・中学校トイレ改修（令和2年12月完了）

- ▶小中学校のトイレは、老朽化が進み、タイルの剥落や臭気等が問題となるとともに、洋式化が不十分であった。
- ▶老朽化に伴う学校施設の大規模改修に先行して、平成29年から令和2年までの4年間で集中的に、市内全11小・中学校のトイレの改修工事を実施。



小・中学校体育館エアコン設置（令和5年度～令和7年度）

- ▶近年の記録的な猛暑が続く中、児童生徒の「学習及び生活の場」であり、教職員の「働く場」でもある学校が、安心安全で快適性を備えた環境となるよう、令和5年度から令和7年度までの3年間で、市内全小・中学校の体育館にエアコンの設置を進めています。

エアコン設置の効果を視察

- ▶令和6年8月7日、体育館のエアコン設置の効果を見るため桶川小学校体育館を視察。



WBGT測定器

(暑さ指数)
WBGT
32.6°C

運動は
危険

WBGT（暑さ指数）・・・①湿度、②日射・輻射などの周囲の熱環境、③気温 の3つを取り入れた指標で、単位は気温と同じ「℃」を用いる。

WBGTによる温度基準域	注意すべき生活活動の目安（※1）	熱中症予防運動指針（※2）
危険 31℃以上	全ての生活活動で起こる危険性	【運動は原則中止】特別の場合以外は運動を中止する、特に子供の場合には中止すべき。
厳重警戒 28℃以上31℃未満		【厳重警戒】激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに水分補給。
警戒 25度以上28度未満	中等度以上の生活活動で起こる危険性	【警戒～積極的に休憩～】熱中症の危険が増すので、積極的に休憩を取り適宜水分・塩分を補給。
注意 25℃未満	強い生活活動で起こる危険性	【注意～積極的に水分補給～】熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分補給。

※1 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.4を基に作成

※2 日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針（2019）」を基に作成



- ▶エアコンが設置された体育館内は、気温24.4℃、暑さ指数19.3℃の安全なレベルで、体育やスポーツ活動を快適で安全に行うことができる環境となっていました。
- ▶学校の体育館は、災害時には避難所にもなり、子どもたちの熱中症予防対策と合わせて、いつ発生するか分からない災害に対する備え（防災機能の強化）としてもエアコン設置の効果があります。

4. 誰もが安心して暮らせるまちづくり



駅西口トイレリニューアル（令和7年1月）

- ▶ 駅西口トイレは、昭和59年の整備完了から約40年が経過しており、施設の老朽化が進む中、令和4年8月に女性用トイレ2基が故障した。
- ▶ これまで駅西口トイレについては、駅東口駅前広場の整備が完了した後の、駅西口駅前広場のリニューアルの中で、改修等を検討していく予定であったが、施設の老朽化が進んでいることや、部品交換による修繕ができなくなっていることなどを踏まえ、新たなトイレの整備を決定。
- ▶ 令和7年1月30日、新たなトイレが完成し供用開始。入口には防犯対策としてセンサーライトと防犯カメラも設置し、駅を利用される方が安心してトイレを使用できるようになった。

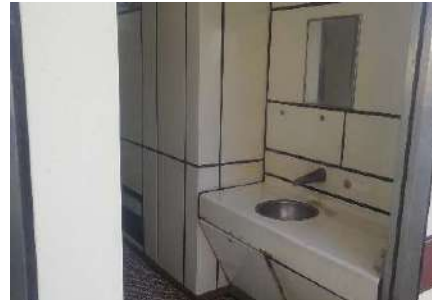
女性トイレ



男性トイレ



洗面台



新旧トイレ比較

設備	旧	新	増減
男性用トイレ			
小便器	2基	3基	+1基
大便器	1基（和）	2基（洋）	+1基
手洗い器	1基	2基	+1基
ベビーチェア	-	1基	+1基
女性用トイレ			
大便器	2基（和）	3基（洋）	+1基
手洗い器	1基	2基	+1基
ベビーチェア	-	1基	+1基
バリアフリースペース			
大便器	1基（洋）	1基（洋）	-
手洗い器	1基	1基	-
オストメイト	-	1基	+1基
ベビーチェア	-	1基	+1基
収納式多目的シート	-	1基	+1基

一級河川「江川」改修

- ▶一級河川江川は、荒川に合流する延長約5,190m、流域面積1,735haの河川。
- ▶平成27年の台風11号で発生した大変痛ましい水難事故を受け、江川改修に向けて国・県に対して緊急で要望を実施。
- ▶埼玉県において、速やかに**調節池の整備**や**河道改修**について事業化。

江川平常時



江川増水時



国交省への要望 (H27.8)



調節池整備事業



調節池予定地

「調節池」とは…

豪雨等で急激に水量が増加した場合に、河川が氾濫しないよう、一時的に水を溜めておき、後で徐々に放水するための施設。



- ▶平成30年度から一部掘削工事に着手し、その後、調節池の周りに地下水侵入防止のための**止水矢板の設置工事**（令和7年完了）、**調節池南側市道の橋梁架け換え工事**（令和3年完成・西中学校生徒が「ゆずりは橋」※と命名。）を実施。

※ゆずりは橋：桶川西中学校のシンボルツリー（ゆずり葉）から橋の名前を考案。ゆずり葉は木の葉が次々に入れ替わることから、西中学校と共に進化するという意味合い。

- ▶令和5年度～6年度にかけて**調節池北側市道（1-4号線）の橋梁架け換え工事**（令和7年3月完成予定・西中学校生徒が「えがお橋」※と命名。）、江川を横断している送配水管の移設工事を実施。

※えがお橋：橋を渡る時に笑顔になって欲しいから。江川（えがわ）から派生して→「えがお」

「自助」「共助」の推進

- ▶市では災害時に要支援者を支援して下さる自治会、自主防災組織、民生委員、警察、消防署等へ要支援者の情報を提供することができる「**避難行動要支援者支援制度**」を令和2年3月から実施し、地域のつながりによる助け合いの仕組みづくりを進めています。
- ▶令和2年9月～10月にかけて、川田谷区長会をはじめ、市内各地区の区長の皆様と「**桶川市避難行動要支援者情報提供協定書**」を締結。



民間企業等との協定締結

- ▶民間企業等とも連携し災害対応力の更なる強化に取り組んでいる。



避難所などで必要となる**緊急支援物資の搬送**や**仮設トイレの提供**が可能。



避難時の洗髪や散髪が可能になり、**衛生環境の維持や、避難者の精神的負担の軽減**につながる。



避難所等における鍼灸マッサージの施術や健康指導等が可能。**身体的負担の緩和・精神的な負担の軽減**にもつながる。

5.ネクスト桶川～新たなステージへ～



ますます高まる桶川の付加価値

週刊東洋経済（東洋経済新報社）の令和7年1月11日号で、住みやすさに関するランキングが掲載され、桶川市は首都圏で第4位・埼玉県内第1位となる。



概要

マンション価格が割安で、かつ住みやすい環境が整っている街をランキング形式にしたもの。

順位	自治体名	総合ポイント ポイント(100)	2024年 価格(万円)	上昇度 (30)	お手頃 価格度(10)	安心度 (20)	利便度 (20)	快適度 (20)
1	中央区(東京都)	86.0	11,647	30.0	4.8	12.7	20.0	18.5
2	白井市(千葉県)	85.8	1,322	30.0	9.2	15.1	13.7	17.8
3	港区(東京都)	85.5	13,380	30.0	4.8	13.3	18.7	18.7
4	桶川市(埼玉県)	85.0	1,745	29.8	8.8	15.3	13.4	17.7
5	鶴ヶ島市(埼玉県)	84.7	1,710	29.5	8.9	13.1	14.7	18.5
6	鴨川市(千葉県)	84.5	1,145	30.0	9.4	16.0	15.0	14.1
7	富里市(千葉県)	84.4	1,159	30.0	9.4	14.0	14.2	16.8
〃	小田原市(神奈川県)	84.4	2,391	30.0	8.2	13.8	14.3	18.1
9	印西市(千葉県)	84.1	2,183	25.6	8.4	16.0	15.0	19.1
10	上尾市(埼玉県)	84.0	2,663	29.9	8.0	14.6	14.1	17.4

まちの「安心度」が比較的高い

⇒「安心度」の指標は、人口当たり病院・一般診療病床数、老年人口当たり介護保険施設定員数、子ども医療費助成制度の有無、人口当たり刑法犯認知件数、人口当たり交通事故件数などを基にしている。

▶安心安全な住みやすいまちとして、まちの付加価値がますます高まっている。

ネクスト桶川への新たな公約

- ▶人口減少の加速や激甚化・頻発化する災害、地域コミュニティの希薄化、物価高騰など、現在、**先を予測し難い「不確実性」の高い時代を迎えています。**
- ▶こうした社会情勢の中でも、市民の暮らしを豊かにするために、子育て・福祉・医療・教育・スポーツ・文化・インフラ整備など、**あらゆる分野の事業の歩みを止めることなく取り組んでいく必要があります、「ネクスト桶川」に向けた新たな公約（10項目）を掲げます。**

公約（10項目）

1

学校給食完全無償化を目指して
段階的な給食費の無償化を開始

6

駅東口の更なる加速

南小跡地（ことぶき広場）活用特別プロジェクトの始動

2

東側地区子育て支援拠点の整備

7

ごみ処理施設施設整備促進

最短・最速で安定したごみ処理体制の提案

3

西側地区（日出谷）
児童館・地域コミュニティ拠点施設整備

8

企業誘致の更なる推進

桶川北本I.C周辺企業誘致事業の更なる推進

4

オーガニック給食の推進

9

頻発化・激甚化する災害への備え
備蓄品の更なる強化

5

75歳以上の市内循環バス無料化

10

安心・安全なまちづくり
防犯カメラの設置促進など

学校給食完全無償化を目指して段階的な給食費の無償化を開始

実績（令和5年度）

▶食料品価格等の物価高騰による経済的負担を軽減するため、学校給食費の半額を支援する「学校給食費負担軽減事業」を実施。（令和5年6月議会補正予算）

▶**小・中学校全ての児童・生徒の給食費8月分から3月分を半額に軽減。**

保護者負担：小学校：4,000円→**2,000円**／月

：中学校：4,550円→**2,275円**／月

※令和5年9月議会補正予算にて、市外の私立小・中学校に通う児童生徒の保護者まで対象を拡大。

	小学校	中学校
食数	21食	21食
給食費	4,000円	4,550円
	▼	▼
保護者負担	2,000円	2,275円
助成額	2,000円	2,275円

※令和5年10月の軽減の例

令和7年度当初予算案－9,984千円－

－趣旨・目的－

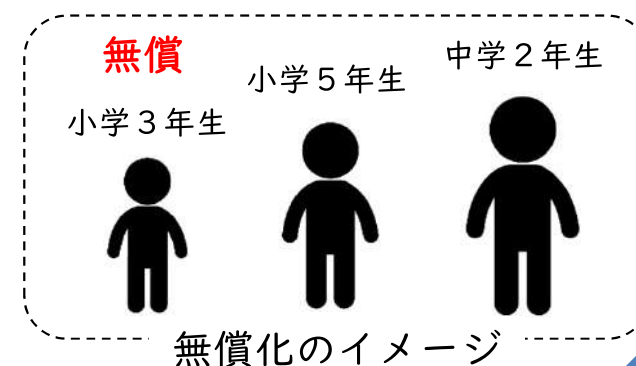
▶子育て環境の更なる充実を図るため、経済的負担の大きい多子世帯に対する学校給食費の支援を行います。

－内 容－

▶**多子世帯の保護者に対して第3子以降の学校給食費を無償化する。**（保護者からの申請による）

- ・学校給食費徴収金減額（歳入） 9,500千円
- ・多子世帯学校給食費等助成金（歳出） 484千円

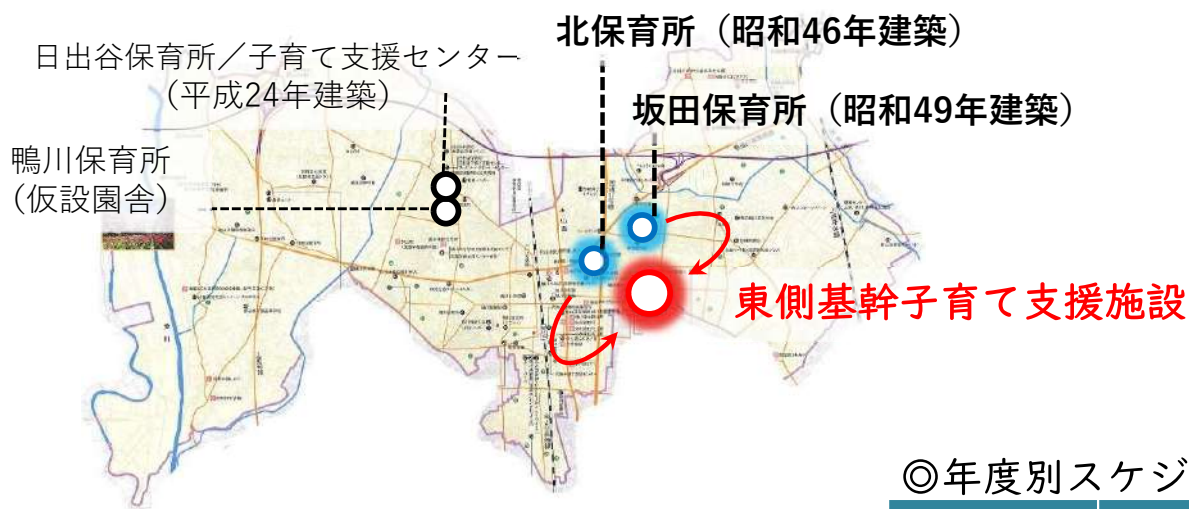
※3人が義務教育下にあること



2 東側地区子育て支援拠点の整備

背景

- ▶ 共働き世帯・ひとり親家庭の増加など、近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化。
- ▶ 桶川市の児童人口は減少傾向にあるが、保育所の入所希望は横ばいが続くとともに、子どもの居場所や子育てに関する相談など、子育て支援に対する需要が高まっている。
- ▶ 一方、市内の公立保育所は老朽化が著しく、特に北保育所と坂田保育所は建築後40年以上が経過していることから、今後建て替えが必要。
- ▶ 両保育所の老朽化対策とあわせて子育てに関する支援を充実させるため、子育て支援センター等の機能を有する子育て支援拠点（**東側基幹子育て支援施設**）を整備。



整備予定地

勤労青少年ホーム
跡地等に整備予定
(約3,900㎡)



北保育所 (S46年竣工当時)



坂田保育所 (S50年当時)

◎年度別スケジュール (予定)

	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
解体工事	解体設計	解体工事			
新設工事	基本設計	詳細設計	新設工事		

新施設開設

背景

- ▶人口減少や少子高齢化の進展、社会の価値観の変化等により、街並みが変わるとともに、地域のつながりも希薄化。
- ▶地域の交流・活動、生涯学習など、**コミュニティの醸成や学びの機会につながる地域の拠点づくりが求められている。**

児童館・地域コミュニティ拠点施設（日出谷）



- ▶現在、児童館は東側に1か所。坂田地区や駅周辺地区の利用者が多く、市西側の利用者は少ない。
- ▶子どもの居住地区や年齢に関係なく、それぞれのライフステージや用途に応じ、**安心、安全に過ごせる子どもの居場所が求められている。**

施設整備の方向性



民間施設（検討中）

※民間との相乗効果や利便性の向上を図る観点から、民間施設との複合化を検討中

児童館、子ども発達相談支援センター

- ▶**コミュニティ機能、生涯学習機能、子育て支援機能**を複合的に備えた施設とし、子育て支援機能は、児童館のほか、子ども発達相談支援センター（現西小学校内）の移転を予定。

今後の予定

- ◎令和7年度～8年度：事業手法や施設機能の検討、事業者選定
- ◎令和9年度～11年度：設計及び建設（予定）
- ◎令和11年度中：開業（予定）

オーガニック給食の推進

農薬や化学肥料に頼らず栽培された有機農産物を学校給食に取り入れることで、子どもに安心安全な食を提供しようという動きが各地で広がっています。



事例

◎千葉県いすみ市 – 100%有機米の学校給食の実現 –

- 平成24年 「自然と共生する里づくり協議会」を設立し、有機農業のまちに舵を切る。
- 平成26年 水稻有機栽培の実証事業を開始（3年間）⇒民間稲作研究所、県、JA、市が連携。
- 平成27年 **地元産の有機米4トン**を市内全ての小・中学校（約2300人）の学校給食に使用
- 平成29年 **年間通じて有機米による学校給食を実現**
- 平成30年 有機米だけではなく有機野菜の導入に向けた取組を開始。
- ⇒ **現在、有機米・有機野菜による学校給食を提供**

※千葉県いすみ市の有機農業産地づくり～公民連携による学校給食需要に着目した産地づくり～（いすみ市農林課 主査 鮫田 晋）を基に作成

ーいすみ市の事例のポイントー

▶「公民協働による有機米産地形成モデル」

農家や環境団体、事業者、市民、市役所が一体となり、農業の都合や環境の都合、教育の都合等に固執するのではなく、縦割りを越えた総合的な観点で有機農産物の学校給食の必要性や可能性について議論したことで実現につながった。

現時点の桶川市の課題

- ▶学校給食はあらかじめ定められた日に大量の食材を一度に使用するため、流通の少ないオーガニック食材を使用することが難しい。
- ▶通常使用する食材と比較し価格が割高となる 等。

5 75歳以上の市内循環バス無料化

市内循環バス「べにばなGO」

- ▶市内循環バス「べにばなGO」は、交通空白地域の解消及び高齢者等をはじめとする交通弱者の移動手段の確保を目的として、**平成13年4月から運行開始**。
- ▶公共施設の利用や通勤・通学等**市民の身近な移動手段として定着**している。

運賃

区 分		運 賃	
		1乗車	1日券
大 人	中学生以上	200円	400円
高齢者	75歳以上	100円	200円
運転免許返納者	—	100円	200円
小 児	6歳・小学生	100円	200円

※幼児、乳児、障害者等の欄は省略

- ▶現在、75歳以上の方は後期高齢者医療被保険者証を提示することで、通常、1乗車当たり200円のところ**100円**で乗車可能。
- ▶また、令和6年10月から市内在住の75歳以上の希望者に100円で乗車できる「特別乗車証」を発行。



小型ノンステップバス



中型ノンステップバス

外出の重要性

- ▶高齢者が外出することで、認知症やうつ病の予防、体力の維持向上、生活意欲の向上など様々なメリットを得ることができる。
- ▶国際長寿センター「高齢者日常生活継続調査(H20)」(生涯活躍のまち構想：2015年 内閣府)によると、身体機能を維持している男性の68.1%、女性の42.5%が「毎日外出している」と回答。

▶ 今後一層進展する高齢社会の中で、高齢者の外出をより一層支援するため、**75歳以上の運賃無料化に取り組んでいきます。**

駅東口整備の更なる加速

- (1) 桶川駅東口駅前広場整備 ▶当初、平成26年3月から令和6年3月までの事業計画であったが、令和11年3月まで事業期間を5年間延長



駅東口利用者のための送迎場の設置

送迎を安全かつ円滑に行えるよう、駅東口駅前広場中央の島地部分を一般車両の送迎用駐車スペースとして確保。

歩道の幅員と視界を十分に確保

- ・構築物等を必要最小限にし歩道の幅員と広場内の視界を確保。
- ・車いすや点字ブロックを利用される人など、全ての人が余裕をもって安全に通行できる。

- ▶令和7年1月末現在、事業に必要な用地の**約92%**を取得済み。

(2) 駅東口通り線及び仲仙道線

- ▶駅東口通り線：延長130m
仲仙道線：駅東口通り線から南北に148m
- ▶平成28年度に桶川市と埼玉県で当事業に必要な用地取得等に関する協定書を締結し、以来、桶川市が主体となり権利者への説明、相談、調整を行なっている。
- ▶令和7年1月末現在、対象面積の**約94%**の用地取得を完了。



写真は中山道の歩道橋から撮影。歩道橋は3月27日から撤去工事開始。4月に撤去予定。

(3) 南小跡地等の利活用

検討の状況



ことぶき広場イベントの様子
(2023年8月 商工会青年部フェス)

▶南小跡地(ことぶき広場)は、駅周辺にある駅前子育て支援センター(愛称 ほほえみ)、駅東口自転車駐輪場、駅東口循環バス駐車場などの公共施設が立地する市有地と併せ、周辺道路等のインフラ整備を進めながら、**中心市街地の利便性の向上と賑わい創出につながる**利活用の方向性を検討。

▶令和5年度

「南小跡地等利活用調査」を行い、事業者や市民アンケートを踏まえて選定した事業者へ企業ヒアリングを実施。

▶令和6年度

都市計画マスタープランの改定に伴い周辺地域のまちづくりの方向性を決定し、南小跡地活用方針について検討。

今後の予定

▶令和7年度

施設機能や規模を検討し、施設計画を策定する。

▶令和8年度以降

事業者を決定し、施設の設計や施工を実施。

公約の「一丁目一番地」の事業として、利便性の高いまちづくりに向けて整備を加速させます。

ごみ処理施設整備促進

平成14年07月 桶川市環境センター周辺地区対策協議会設立

平成14・15年度 環境センター焼却施設改修工事 ●

平成17年04月 上尾・桶川・伊奈広域ごみ処理検討会立ち上げ（平成20年5月脱会）

平成22年10月 中部環境保全組合（吉見町）へ広域化参加申し入れ

平成24年11月 中部環境保全組合が現体制での新施設整備事業を断念、新体制での広域化実現を目指す

平成25年03月 埼玉中部広域清掃協議会設立（新体制である埼玉中部資源循環組合の前身）

平成27年04月 埼玉中部資源循環組合設立

令和02年03月 **埼玉中部資源循環組合解散**(R2.3.31)

令和03年01月 川島町との勉強会開始（令和3年3月から東松山市が加わる）

令和03年11月 広域化の可能性について「報告書」を取りまとめ ●

令和04年01月 「ごみ処理の広域化の推進に関する基本合意書」締結（川島―桶川―東松山）

令和04年08月 建設候補地を川島町内の**三保谷宿（南）**に決定

令和05年01月 東松山市が協議会の不参加を表明

令和05年02月 **川島町・桶川市ごみ処理の広域化に関する協定書 締結（川島―桶川）**

令和05年04月 **川島町・桶川市ごみ処理広域化協議会 を設置（川島町役場内）**

令和06年05月 ごみ処理基本計画及び新ごみ処理施設整備基本構想を策定

令和06年09月 **川島桶川資源循環組合 設立に関する協議書を締結** ●

令和06年10月 埼玉県知事より川島桶川資源循環組合設立の許可

令和07年04月 **川島桶川資源循環組合設立**

- ・ダイオキシン類対策特別措置法の改正による。
- ・この時桶川市は単独処理ではなく広域化へ舵をきる。

<報告書>

広域化は「最短・最速での安定したごみ処理体制の実現」につながる可能性が高いと結論付けた。



施設規模

エネルギー回収型廃棄物処理施設（可燃ごみ処理施設） 69t/日

マテリアルリサイクル推進施設（粗大ごみ処理施設、リサイクル施設） 20.7t/日 整備予定。

今後の予定

令和15年の施設稼働に向けて、川島町と連携を図り、測量・地質調査、都市計画決定・農振除外、事業者選定などを進め、**最短・最速での安定的なごみ処理体制を実現していきます。**

企業誘致の更なる推進

- ▶平成27年、圏央道桶川北本I.C.から白岡菖蒲I.C.間が開通し、新たな広域交通ルートが形成。桶川市は、市内に**2つの圏央道のI.C.**を有する大変便利な地域。
- ▶平成29年3月には、新大宮上尾道路の「さいたま市中央区円阿弥～上尾市堤崎」の延長約8.0kmが事業化され、近い将来、桶川北本I.C.に向けて整備が進む予定。

▶ **東名、中央、関越、東北、常磐自動車道といった高速道路網と首都圏を結ぶ一大結節点**

桶川北本I.C.周辺東部地区開発

- ▶まちが持つポテンシャルを活かし、賑わいと活力あるまちづくりを進めるため第六次総合計画で位置付けた「複合開発エリア」の一つである、**桶川北本I.C.東部地区**において、営農環境や生活環境、景観に配慮した産業基盤整備（桶川北本I.C.周辺東部地区の開発）を推進。



これまでの主な経過

- ▶平成29年3月：地元地権者により「桶川北本IC周辺東部地区開発地権者協議会」発足。
- ▶平成29年5月：「協議会-開発事業者-市」の間で基本協定を締結。
- ▶令和05年8月：環境アセスメントに伴う調査完了
- ▶令和05年9月：全地権者（100%）の同意を取得完了。
- ▶令和06年5月：埋蔵文化財の試掘調査を実施（～7月）

現状、課題、手続

- ▶当該地域は農業の振興を図る地域であることから、農業に関する土地利用計画との調整（**農林調整**）手続きが必要となり、国や県との協議に時間を要する。
- ▶引き続き、農林調整を進めるとともに、市街化区域に編入するための都市計画決定や、土地区画整理事業の認可など、関係機関との調整を進め、早期の事業実現を目指す。

- ▶令和元年10月の「令和元年東日本台風」では、桶川市内でも床上・床下浸水、道路冠水、倒木など大きな被害が発生し、初めて避難勧告（当時。現在「避難指示」）を発令しました。
- ▶また、令和6年8月、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震発生に伴い、わが国で初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。
- ▶今後、南海トラフ沿いで**30年以内にM8～9の地震が発生する確率は80%程度（※）**とされており、大地震の発生リスクが年々高まっています。

備蓄用防災倉庫建設（令和4年3月）

近年激甚化・頻発化する自然災害に備えるため、非常用の食料品をはじめ、毛布や簡易トイレ等の生活必需品、発電機などの資機材類、段ボールベッドやパーテーションなどの避難所環境を整備するための物資を備蓄。

◇建築面積：262.55㎡（延べ床：496㎡）

◇構造：鉄骨造2階建て

◇財源：緊急防災・減災事業債

※地方交付税交付金算入率70%



令和7年度当初予算案－9,750千円－

指定避難所の災害対応機能の充実を図るとともに市民の防災意識の向上、各家庭における自助の取り組みを支援するため、防災対策の取り組みをパッケージ化。

- | | |
|---|---------|
| ・ 停電に備え、各指定避難所へポータブル蓄電池を配備 | 5,000千円 |
| ・ 防災意識向上に向けた防災ガイドブックの作成 | 4,000千円 |
| ・ 各家庭での自助の取組を支援するため、家具転倒防止器具等の設置費用の一部補助 | 750千円 |

防犯カメラの重要性

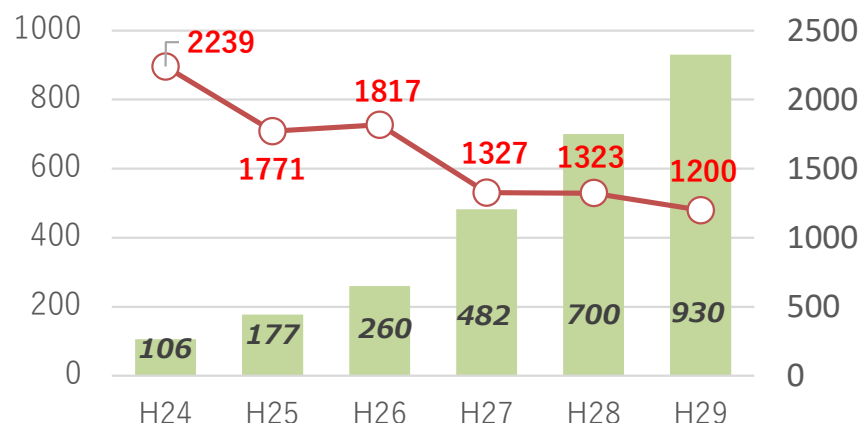
- ▶ 刑法犯認知件数は、平成15年から令和3年まで一貫して減少してきたが、その後増加に転じ、令和6年は73万7,679件と、令和3年から3年連続で前年を上回った。
- ▶ 令和6年の街頭犯罪（※2）の認知件数は、25万5,247件と、前年比で4.6%増加した。

※2 街頭犯罪：路上強盗、ひったくり、自動車盗、車上ねらい、不同意性交等、暴行、傷害等のうち街頭で行われたもの。

- ▶ 全国の警察が2019年に検挙した刑法犯のうち、防犯カメラなどの「画像」が容疑者特定の主なきっかけになったのは10.2%だった。防犯カメラやドライブレコーダーの普及に伴い、この割合は年々増加している。

犯罪抑止－愛知県刈谷市の例－

- ▶ 平成15年度、愛知県刈谷市では、刑法犯認知件数が4,500件を記録。
- ▶ 平成23年度から街頭に防犯カメラを積極的に設置し、平成29年度には900台を超えるまで増設。
- ▶ 平成24年度から平成29年度の5年間で刑法犯認知件数が46.4%減少。



令和6年度 防犯カメラ設置

- ▶ 防犯対策及び犯罪抑止効果を高めるため、桶川駅西口及び東口、城山公園、駅西口公園に防犯カメラを設置。
- ▶ また、リニューアルした駅西口トイレにも2台設置。

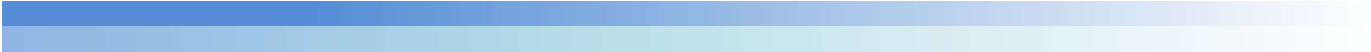


3期12年にわたる確かな実績をもとに
桶川を 新たなステージ へ押し上げ

50年・100年先の未来も
誰もが笑顔で生き活きと輝けるよう

引き続き 夢と希望を未来へつなぐ
持続可能なまちづくりに
邁進してまいりますので

皆様のご支援・ご協力を
何卒よろしくお願いいたします



ご清聴ありがとうございました

